

「北の国から」

8月、家族で北海道を旅してきた高野です。我が家では初めて旅行会社の企画したパッケージ旅行を利用し、現地でもバス移動。

初めてバスガイドさんのいる旅に子ども達もドキドキしているようでした。

訪れたのは、定山溪、旭川、富良野、札幌、小樽。

「その中で、もう一回行くなら何処？」と訊かれたら富良野のファーム富田でしょうか。ガイドさんに、富田忠雄さんという人がラベンダー畑を作り上げた話を聞いて感動したのです。有名な所なので、行かれた方も多いことでしょう。

富田さんは21歳の時にラベンダーの美しさに取りつかれて、お父さんから引き継いだ農地をラベンダー畑に変えてしまいます。

当初、ラベンダーは鑑賞用に植えたのではなく、オイルを抽出して、香料として企業に販売してたんだそうです。そしたら最初から大成功したんですって。ところが1972年に人工香料が出来たために、ラベンダーを栽培しても採算が合わなくなるのです。ある資料によると北海道の生産量は百分の1以下になっています。

結果、わずか数年で富良野のラベンダー畑は富田さんところ1軒に。その富田さんも生活苦からラベンダーを切る覚悟を決めて、観光客に「今年がラベンダー見れるのも最後だから、よく見てってね」と声をかけていたんだそうです。

すると、その翌年、奇蹟が起こるのです。北海道中からファーム富田に見学者が訪れるようになったのです。JR北海道のポスターにファーム富田のラベンダー畑の写真が使われたことがきっかけでした。

そして旅行者から教わった手作りのサシエ（匂い袋）を販売してみると、飛ぶように売れたのだとか・・・。

それから数年経つと、また奇蹟が起こるのです。テレビドラマ「北の国から」で子ども達が、生き別れたお母さんとラベンダー畑で再会するシーンが放映されるのです。

ネットで調べると、そのロケ地がファーム富田のように書かれていますが、ガイドさんの話では、別の所だったといいます。けれど全国から勘違いした人が集まるようになったのだそうです。

これで全国区となり、今では年間100万人の観光客が訪れ、BtoCのビジネスモデルで儲かっていらっしゃるようです。

でも、その話以上に私が感動したのは、施設や農機具の美しさです。見事に手入れされていて、ディズニーランドよりもキレイです。

ラベンダーだけでなく全てのモノを活かした経営。ぜひ北海道、富良野を旅した際は、ファーム富田に行ってみてください。